

「としま・まちごと福祉支援プロジェクト」イベント（2020年12月開催）ご報告

12月11日に、としま・まちごと福祉支援PJ会議Vol.11のイベントとして、一般社団法人包括あんしん協会 代表理事 大和泰子さんと考える「人生100年時代！ひとりの不安がなくなる もしもの時とお金の備え方」が行われました。ファイナンシャルプランナーでもある大和さんから、少子高齢化の時代を迎えた現代の「備え」についてお話しただけました。

人生100年時代とはどんな時代でしょう。85～89歳の認知症の割合は40%と、年齢とともに上昇、PPK（＝ピンコロ）で人生を全うできればいいけれど、現実には健康から病気・認知症・介護（＝BNK）を経て亡くなる場合がどうしても多くなります。核家族化により老後は一人。少子・高齢・未婚の増加で、看護・介護・看取りをしてくれる身内がいない。これは他人事ではありません。そうした場合どうすれば安心できるのか？例えば支える人がいれば、不安は少なくなりますよね。そこで大和さんは、シニアサポート事業「一般社団法人 包括あんしん協会」を立ち上げました。包括あんしん協会の契約の一例、家族代行契約を見てみましょう。

病気の家族がいる、自分が癌になった、残された家族はどうなる？という場合にはどのような支援が必要か。

【現行の支援】

・安否確認 ・ケアマネとの話し合い ・医師との話し合い ・生活資金管理

【今後行う支援】

・施設入居保証人 ・入院・退院付き添い ・死後整理

このように書き出すと、必要なものが見えてきます。個人的に自分が高齢になった時に、これだけやってくれる人が果たしているのだろうか、いやいな！と現実が見えてきました。

人生後半の5大リスクとは

・知らない ・受け入れない（柔軟性がない） ・死なない（長生き） ・お金がない ・人がいない
思い当たる節がありませんか？

ところでシニアって何歳くらいからだと思えますか？定年後？エンディングノートは死ぬ間際に書いておけばいいと思いませんか？そう思うのは今は健康だと思っているからです。そうこうしている内にあっという間に時間は過ぎて行き、あの時こうしておけば良かったと後悔したくないものです。包括あんしん協会さんのwebsiteでは何度でも書き換えられるエンディングノートもあり、エンディングノート書いたけど無くした！なんてこともなくクラウドに預けておけます。

「備え」は健康な内に。非常に実感させていただきました。

包括あんしん協会website <https://anshins.or.jp/>



大和泰子さん



100年コミュニティ 検索



一般社団法人
コミュニティネットワーク協会

100年コミュニティ 検索

<https://conet.or.jp>

